

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成21年12月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3970300129
法人名	社会福祉法人 香南会
事業所名	グループホーム あい
所在地	〒784-0043 高知県安芸市川北甲3731番地
自己評価作成日	平成21年5月13日
評価結果市町村受理日	平成22年1月6日

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成21年9月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3970300129&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は、山や農地に囲まれた静かな高台にあり、入居者にとっては、安心して快適な田舎暮らしができます。また、災害時における地域の避難施設に指定されています。入居されている方は、地域の方との触れ合いや、畑では花や野菜の栽培をして楽しんだり、食事を一緒に作ったりしながら、ゆったりと過ごされています。利用料金については、低所得の方でも入居可能な設定にしており、退居後も必要性があれば、同法人が運営している介護保険施設等がご利用できるよう、バックアップ体制も整備し、安心な暮らしを提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

のどかな田園風景に囲まれた高台に位置するホームである。総合福祉ゾーンの一角に位置し、併設されている各施設との連携も取れており、地域の災害時の指定避難場所になっている。また、施設の庭に地域の方がお花見に来たり、保育園児が訪れたりして、利用者の方も地域の方と触れ合いながらゆったりと過ごせる環境になっている。ホームは開設6年目であり、今後も、地域に溶け込み、利用者が安心して居心地よく暮らせるホームとしての発展が期待される。

自己評価および外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の採用時には理念を説明し、理解をもらい書面で交付している。また、職員会等でも理念について話しあい、実践で活かせるよう取り組んでいる。	地域に根ざしたグループホームとして、利用者が今まで生活してきた地域と同じ環境で、いつまでも楽しく暮らせるようにとの思いを込めた理念がある。また、職員会などで、折に触れて話し合い理念の実践を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所以前からある施設に併設してできた事業所ということもあり、地域には定着しており行事や清掃活動、防災訓練などを通じて積極的に交流が図れている。	広い庭の桜を地域の人が花見に来たり、保育園児がお弁当を食べに来るなど、気軽に立ち寄れる雰囲気がある。町内会にも加入し、公民館で行われる週1回のいきいき百歳体操に参加するなど、地域と交流している。また、総合福祉ゾーンの特性を活かし、災害時の地域の避難場所としても指定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	誰でも利用できる低料金設定や、入居希望者の御家族からの相談なども受けている。また、高齢者との交流や福祉体験ができるように実習生の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を活かして地域参加型の避難訓練を実施している。今後もサービス向上につながるように会議にて検討し取り組んでいく。	事業所からの報告だけにとどまらず、参加メンバーからも質問、意見があるなど双方向的な会議となっている。また、前回の評価結果を報告し、改善に向けて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会をきっかけに連携が図れるようになり、お互いに解らないことがあれば確認を取り合い、サービスの向上につなげている。	市へ直接出向いたり、電話で相談するなど連携を図っている。また、市の担当者が事業所の行事に出席するなど、更なる協力関係の構築に向けて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり、職員会で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしができるよう支援している。	身体拘束をしないケアについて、研修や職員会を通じて理解し実践している。居室や日中の玄関に鍵はかけていない。一人で外出したい利用者もいるが、職員は個々の外出傾向を把握しており、安全に配慮して付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組んでおり、職員には事例を出して説明し、研修参加も配慮し徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で取り組んでおり、職員や家族にも説明し情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時や契約時に文書を見ながら十分に納得がいくように説明し同意を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年4回設け、苦情は、事業所にとっての宝と考え、改善するように取り組んでいる。また、家族会で出た問題は、運営推進会でも取り上げ話し合いをしている。	家族主体の家族会があり、家族からの意見、要望がしやすい仕組みを作っている。苦情は現時点ではないが、意見、要望について対応等の記録がある。また、併設施設を含めた法人全体の第三者委員の設置があり、家族が相談できるようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や職員会、毎日のミーティング等で意見を聞き、行事や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。	年2回の個別面談のほか、法人内研修や法人内のグループホームとの交流を通じて、意見交換を実施している。また、ミーティングでの話し合いなどで、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を基に個別面接を行い、能力に合わせた指導や自己能力開発に繋がるように取り組んでいる。また、研修にも参加できる機会を設け職員会で報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で多くの研修を設け受講できるように取り組み、また、ヘルパー2級講座や、介護福祉士受験対策講座も開き資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人内の他のグループホームとは、毎月勉強会を行っている。また、関連の事業所やケアマネージャーの連絡会や研修にも参加し情報交換している。</p>		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人にも事業所を見学に来ていただき、不安を軽減できるように努めている。また、待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして信頼関係を構築できるように配慮している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の介護不安やご本人の状況をよく聞き、気軽に相談できるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>緊急性のある方については、法人内・外と連絡調整し入所できるように迅速な対応をしている。また、市町村にも困っている方の相談受け入れをしていただくように働きかけている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者は人生の先輩であると言う考えを職員が共有できるように配慮し、普段から入居者に教えてもらう場面が多くあり、お互いに助け合い、協働しながら生活できている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と良く話をしコミュニケーションを積極的に図り、入居者が体調不良などで心細い時は連絡を取り、訪問してもらおうなど、お互いに助け合える協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人によく訪問していただいたり、自宅周辺にドライブに行くなどして、継続的な交流ができるように働きかけている。	事業所に利用者の知人の訪問があったり、行きつけのスーパーへの買い物や自宅周辺へのドライブなど、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなど全員が参加できるように配慮し、一緒に楽しく過ごせる時間や気の合う者同士で過ごせる時間を持つように支援している。廊下には、入居者同士が気楽に話ができるように椅子を置くなど配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から次の施設への入居等の相談を受けたりして継続的な関係を保っている。また、お亡くなりになった時には、葬儀に参列している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情、言葉などから汲み取り把握に努めている。	日頃から利用者との会話や、表情、仕草などから希望や意向を把握するよう努めている。また、面会時に家族から意向を聞き、利用者の意向に沿うようにしている。	
----	-----	--	------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族との会話の中などから情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできること、解る力に注目するようにし、その力を維持できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族との関わりの中で思いや意見を聞き、全職員でカンファレンスを行い介護計画に反映している。	担当制があり、月1回のモニタリングや3カ月毎のカンファレンスを行っている。計画の見直し時には、利用者、家族の希望や職員の意見を反映させて作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや会話などを個人記録に記載し、日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、ご本人やご家族が安心して生活できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議をきっかけに、地域との関係も密接になり、地域のボランティア、自主防災や市町村などと協力しながら防災訓練も実施できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や他の医療機関等と連携を密にし、随時、受診対応も行っている。	利用者、家族の希望する医療機関を受診している。2週間毎の訪問看護や、月2回の協力医の往診がある。また、受診は職員が同行し、看護記録で受診結果などの情報共有ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ敷地内に看護師がいるので小さいことも、気軽に相談できており、医療機関との連携も密にとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における医療処置の対応など入居時や状態変化のある度に話している。また、研修にも参加し、受け入れできる体制を整えている。	前回評価の結果を受けて、重度化、看取り対応マニュアルを作成している。現在、本人、家族からの希望はないが、事業所内での勉強会や外部研修を受講し、事業所で対応する体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、普通救命講習を全員受けることで、緊急時の対応方法を身に付け、マニュアルも整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の参加型の避難訓練や、全職員を対象とした夜間呼集訓練及び消火機器の使用訓練など、消防署の協力を得て行っている。	事業所が地域の災害避難所に指定されている関係で、地域住民(37世帯、53名)の参加を得て避難訓練を実施している。また、非常用食料、備品の準備もできている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体でプライバシー保護についての取り組みを行い、職員会でもプライバシーを損ねるような声掛けをしないように話し合いをし、プライバシー保護の徹底を図っている。	プライバシー保護のマニュアルがあり、職員会や研修で話し合い職員に徹底している。また、個人の尊厳を損ねるような声掛けや対応についても、日頃から留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案したり、簡単に意思表示ができるように工夫するなど、自己決定を大切に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物や散歩など個別対応し、希望に沿うように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、化粧品を買いに行ったり、パーマやカットなどもできるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所からいただいた旬の野菜や、自分たちで育てた野菜を皆で調理し、職員も一緒に食べることで、食事を楽しんでいる。	野菜の皮むき、キザミなどの調理の下ごしらえや下膳、食器洗いなど、利用者が出来る事を大切にした支援を行っている。また、個人の嗜好を大切にし、必要に応じて食事形態を変えて提供している。職員は、利用者と同じメニューではないが、テーブルで一緒に食事をしており、利用者と同じ食事をする日を設けたり、検食を通じて味付けの工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや水分摂取量をチェックし、把握している。また、管理栄養士とも相談し食の支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや嚥下体操など口腔ケアに努めている。必要時は、言語聴覚士にも相談して支援している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知症高齢者が失禁することを問題とは捉えていない。ただし、できる限りトイレで排泄できるようにさりげなく誘導し、自尊心にも配慮しながらそっと寄り添うケアに心掛けている。	チェック表などで利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、昼間はパット使用の減らす支援を行い、オムツはずしに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や生活リハビリテーションなどで体を動かす機会を設けたり、食事や水分にも気をつけ、自然排泄できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が楽しめるように朝から浴室を開放し、好きな時間に入れるように支援している。	基本的に毎日入浴するようにしている。入浴拒否の方もいるが、言葉かけを工夫することで入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、日光浴や活動を促し生活のリズムを整え、眠れない時はあせらず話を聴き、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が副作用などについても理解し、服薬支援ができるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを把握し、一人ひとりに応じた役割や楽しみが持て、生き甲斐に繋がるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族会では、普段はいけない遠くの場合にバスを利用し出かけたりしている。また、地域の行事への参加やドライブをしたり、個々のニーズに即した外出の支援も行っている。	内原野のつつじ見学など季節の花見や外食など、家族の参加も得て月に1度はバスを利用してドライブに出かけている。また、利用者の希望で個別に買い物に出かけたり、車椅子やシルバーカーの利用者にも散歩や外出の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを管理できる方も少数おり、洋服やパンなどの訪問販売を利用している。また、買物時は、本人が支払えるように事業所の立て替え金を本人の財布に入れるなどして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方は、毎月のお便りに書いていただいたり、また、電話で話しができる方には、ご家族に連絡し電話でのやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方に、物の配置などアドバイスしていただき、自分の家だという意識を持っていただけるよう配慮している。	普段、家庭で使われている馴染みのある家具が配置され、必要に応じて手すりも設置されている。りんどう、ひがん花など季節の生花がたくさん活けられ、季節感のある雰囲気づくりに配慮している。また、壁面の装飾も家庭的で落ち着いた雰囲気になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や庭に椅子を置くなど、仲の良い方同士で過ごせるスペースを作り、利用できるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得ながら家具や馴染みの物、写真等を持ってきていただき、本人の好みに応じて居室に飾り、居心地のよさに配慮している。	着物の好きな方がゆかたを壁に掛けたり、家族からの絵葉書をはじめ好みの人形やタペストリーを飾るなど、その人らしい居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保しながら自立した生活が送れるように環境など整えている。		

V アウトカム項目		ユニット名： あい	
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない